

二〇二六年 一月三〇日

入学 試験 問題

国語

I

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。解答は、解答用紙の

1

から

16

までにマークせよ。

どうして僕らは時に、喜ばれないプレゼントを贈ってしまうのでしょうか？

プレゼントは嬉しいもの、良いものというイメージがあると思いますが、僕らの日常を考えると、貰って嬉しいプレゼントよりも、貰うと困ってしまうプレゼントのほうがもしかしたら多いと言えるかもしれません。だから最近では、こちらが事前に選んだ具体的なモノを渡すのではなく、相手が好きなものと交換できるギフト券やカタログギフトが贈答品として好まれる傾向にあるのでしょう。

私が選んだモノはあなたにとって要らないもの、貰ってしまうと困るものかもしれない。

そんな懸念が拭けないわけです。

あるいは、友人の悩み相談を聴くときも同じようなことが起こるように思えます。ある悩みを持ちかけられる。その悩みに対して、「みんなそんなもんだよ、大したことないじゃん？」と慰めるつもりで、心配ないよと励ますつもりで言ったとする。しかし、そんなやさしさとしての言葉がなぜかその人をより悩ませ、時に傷つけることになる場面がある。

なぜ、あなたの善意は空回りするのか？

なぜ、僕らの「与えたい」という思いはいつも滑ケイな になってしまうのか？

どうして他者にやさしさを上手に手渡すことができないのか？

しかし、例えば、アンパンマンは他者へのケアあるいは利他に成功しているように見えます。アンパンマンは周囲の者たちに「僕の顔をお食べ」と言いながら、自身の身体であるパンを差し出します（そして、バイキンマンの良からぬ企てから皆を守ったりもします）。

僕はケア、利他に失敗するのに、なぜアンパンマンは成功するのか。

それは「空腹」という共通の基盤があるからです。

空腹あるいは飢えというのは、全ての人間、全ての動物に共通の生存課題です。一見、あまりにも当たり前のことを指摘しているように見えるかもしれませんが、そうではありません。現代における、相互の関わり合いの中で、そういった共通の基盤が果たしてどれくらいあるでしょうか。

どうということか？

現代は「多様性の時代」と言われたりします。多様性とは共通性（あるいは単一性）の反対の概念です。育ってきた環境も違うし、好みも違う。また、こうすれば幸福になれるといった、学歴や就職あるいは結婚に関する大きな物語もなくなっ
てしまい、一人ひとりがそれぞれの物語を生きている時代（あるいはそのように生きなければならない時代）でもありません。

そして何より、これまでの人生の中で負ってきた個人としての歴史が違ってきます。幼少期の生育環境、学校での出来事、挫^エセツの経験、恋愛における失敗、大切な人との別^オり、そういった悲哀や恥や罪悪感という「傷」の形と種類が違って
いるのです。そんな傷の履歴は身体的外傷ほどパツと見て分かるというものではありません。ここに、やさしさがすれ違う理由があるのではないのでしょうか。

アンパンマンがやさしいヒーローであることが可能なのは、そこに空腹という僕らに共通の身体性があるからです。身体
という、共通した「大切なもの」が存在しているからです。

アンパンマンは、そんな身体という私の大切にしているものを、共に大切にしようとしてくれる。

だとすれば、多様性とは、一人ひとりの「大切にしているもの」の複数性の別名と言えます。

だからこそ、私がいいと思ったプレゼント（大切にしているもの）が、その人にとってはそうでない、という事態が起こ
るのです。かつて皆が貧しかった時代の環境では、食料を手渡すことはケアであり、利他だった。なぜなら、食料はあなた

と私のあいだで、共通の大切なものだったからです。共通であったからこそ、ケアと利他はすれ違うことなく、うまく機能していた。それに対し、現代では、共通の基盤、共通した「大切にしているもの」がどれくらいあるでしょうか。

キ、多様性の時代とはそれぞれの立場が尊重される時代とも言えるでしょう。だとすると、ここにはある含意があります。人はそれぞれ立場が異なっている、という前提です。

ク ある一人の主体においても、さまざまな立場を同時に、かつ複数担っているということでもあります。役職やポジションという仕事上の立場、母あるいは父という家庭での役割、プライベートの趣味の集まりでのキャラクターなど、一人の主体が、複数の役回りを演じている、複雑な劇のようなものです。だからこそ、ある判断や決断が、組織人としては正解だが、道徳規範に照らした時にはグレーになる、あるいはその逆といった矛盾から生まれる葛藤があるのです。

僕らはしばしば、劇を間違える。
場面と役回りを勘違いし、語り出すべきセリフを間違える。

良かれと思って差し出したものが、ケアするつもりで伝えた言葉が、時としてその人を傷つける。

ケ

それと同時に、僕らは劇を変えることもできる。^B劇を演じ直すことができる。

例えば、漫画『ONE PIECE』のあるエピソードにそれが描かれています。^{注一}

ある無人島を訪れた主人公ルフィとナミは、その島で独りで生活しているガイモンという（元）海賊と出会う。ガイモンは20年前、仲間とともに宝の地図を手がかりに、この島に上陸した海賊だった。探索の結果、ガイモンは崖の上にある宝箱をついに発見した。しかしその瞬間、手を滑らせて落下し、崖下にあった空っぽの宝箱の中に落ちてはまってしまい、そこで気を失っていた。ガイモンの意識が戻った時には仲間たちはすでに出航してしまっていて、それ以来20年ものあいだ、独りで暮らし、かつて目にした崖の上の宝箱を開ける日を夢見ていた（ガイモンは宝箱からもう抜け出せず、崖を自力では登れない）。

未練があり、諦めきれない、あれはおれのものだ、とガイモンはルフィたちに語る。財宝に関するそんな顛末てんまつを聞かされたルフィは「うん!! 間違いねえ!! そりゃおっさんのだ」と言い、ガイモンに代わって宝箱を取って来てあげるために崖を登る。そして、宝箱はたしかにそこにあった。「ここへ落としてくれ」と頼むガイモンに対して、ルフィはほんの少しだけ微妙な表情をしながら唐突に、「いやだ」と答える。ガイモンに宝を渡さないというのだ。

「冗談やめて早く落としなさいよ!! それ全部!!」と怒鳴るナミに対し、ガイモンはなぜか「いいんだ!! もういい! 渡したくないんなら!!」と答えた。そして、崖上のルフィに向けて「…お前は…いいヤツだなあ…!!!」とつぶやくのだった。

泣きながらガイモンはあることを悟る。というよりも、ずっと前からその可能性を薄々感じていた。

「ないんだろう 中身が…」

全部からっぽだった。地図に書かれた財宝は、ガイモンがこの島に到着するよりも前に、すでに誰かに奪われていたのだった。20年ものあいだ夢見ていた財宝は、ただの空箱だった――。

さて、ルフィは何をしようとしたのでしょうか。

ルフィは、芝居を打ったのです。現実としてそこにあったのは「空っぽの宝箱」でしたが、それをルフィは自分がガイモンから奪うことによって、実在した「財宝」だったことにしようとしたのです。財宝は確かにあったのだが目前で別の海賊に奪われた、そんな劇のプロットに書き換えようとしたのです。

「ガイモン、お前の20年間は何も間違っていない。その夢は、何も間違っていない」と語りかけるかのように。目の前にいる他者の大切にしているものを、共に大切にするために、ルフィは芝居を打った。自分がガイモンから恨まれる可能性が多分にあるにもかかわらず。ここに「ケア」の原型があります。ここでは、ケアを次のように定義します。

ケアとは、その他者の大切にしているものを共に大切にすることを営為全体のこと。

したがって、この定義を採用すれば、ガイモンを前にしたルフィはケアの人なのです。ガイモンをケアするために、ガイモンが20年間見続けてきた大切な夢を共に大切にするために、ルフィは思わず芝居を打ち、嘘をついた。

このケアの定義から先ほど書いた「良かれと思って差し出したものが、ケアするつもりで伝えた言葉が、時としてその人を傷つける」ということの内実がわかります。これはつまり、その人にとっての大切にしているものを見誤ったということ

です。だからここから導けるのは、ケアするためには、その他者が大切にしているものを把握する必要がある、ということ

(近内 悠太 『利他・ケア・傷の倫理学——「私」を生き直すための哲学』一部変更)

注一 アンパンマン・・・やなせたかしによる絵本『アンパンマン』の主人公。困っている人を助けるために自らの顔(あなぱん)を差し出す正義の味方。バイキンマンはその敵役。

注二 『ONE PIECE』・・・尾田栄一郎による少年漫画。海賊王を夢見る少年ルフィらによる「ひとつなぎの大秘宝(ワンピース)」を巡る冒険物語。

問一 傍線部アからオまでのカタカナ部分と同一の漢字を用いる熟語をそれぞれの選択肢の中から一つ選び、その記号を解

答欄 1 から 5 までにマークせよ。

| | | | | | | | | | |
|---|-------|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| 1 | ア 懸ネン | ① | ネン挫 | ② | 熟ネン | ③ | 入ネン | ④ | ネン土 |
| 2 | イ フツ拭 | ① | フツ底 | ② | フツ騰 | ③ | フツ婦 | ④ | フツ筋 |
| 3 | ウ 滑ケイ | ① | ケイ起 | ② | ケイ古 | ③ | 極ケイ | ④ | 恩ケイ |
| 4 | エ 挫セツ | ① | 使セツ | ② | 懇セツ | ③ | 解セツ | ④ | 屈セツ |
| 5 | オ 別リ | ① | 鋭リ | ② | 官リ | ③ | 距リ | ④ | 草リ |

問二 空欄 6 に入る語句として最も適切なものを次の選択肢の中から一つ選び、その記号を解答欄 6 に

マークせよ。

- 6
- ① 自作自演
 - ② 一人相撲
 - ③ 我田引水
 - ④ 孤立無援

問三 空欄

キ

ク

ケ

に入る語句の組み合わせとして最も適切なものを次の選択肢の中から一つ選

び、その記号を解答欄 **7** にマークせよ。

7

- ① キ でも ク それに ケ ただし
- ② キ ですから ク ゆえに ケ さらに
- ③ キ また ク そして ケ しかし
- ④ キ そのため ク すると ケ よって

問四

傍線部 A に「一人ひとりの『大切にしているもの』の複数性」とあるが、それはどういふことか。その説明として最も適切なものを次の選択肢の中から一つ選び、その記号を解答欄 **8** にマークせよ。

8

- ① 一人ひとりそれぞれ異なる「大切にしているもの」が存在しているということ
- ② 一人ひとりがおのおの「大切にしているもの」をたくさん抱えているということ
- ③ 一人ひとりの「大切にしているもの」は単純でなく複雑であるということ
- ④ 一人ひとりがおのおの「大切にしているもの」を集めると多数になるといふこと

問五 傍線部Bに「劇を演じ直すことができる」とあるが、それは漫画『ONE PIECE』の例にどのように見いだせるか。

その説明として最も適切なものを次の選択肢の中から一つ選び、その記号を解答欄 9 にマークせよ。

9

- ① ガイモンはずっと前から宝箱の中身が空である可能性を感じていたが、ルフィが財宝を渡さないというのを聞き、財宝がルフィに奪われてしまったことにして自ら納得しようとした。
- ② ルフィはガイモンの話を聞いて財宝はガイモンのものであると言ったが、宝箱をガイモンから奪うことにし、そこにかつてあった財宝がもともと自分のものだったことにしようとした。
- ③ ガイモンは20年ものあいだ宝箱を開ける日を夢見てきたが、ルフィが財宝を渡さないというのを聞くと、渡したくないならもういいとつぶやき、その夢を自らなきものにしようとした。
- ④ ルフィはガイモンに代わって宝箱を取って来てあげるために崖を登ったが、宝箱が空であることをみて、ガイモンに財宝が実在したと思わせるために、あえて宝箱を渡さないことにした。

問六 傍線部Cに「…お前は…いいヤツだなあ…!!」とあるが、なぜガイモンはこのようにつぶやいたのか。その理由

として最も適切なものを次の選択肢の中から一つ選び、その記号を解答欄 10 にマークせよ。

10

① ガイモンは、ルフィが宝箱の持ち主が自分であると認めてくれたことを喜び、財宝を彼に譲ってもいいと考え始めていたから。

② ガイモンは、ルフィが自分に財宝を渡さないと行ってわざと一旦焦らせて、財宝を手にする喜びを増幅させてくれていると考えたから。

③ ガイモンは、ルフィが宝箱の中が空であることを自分が知って落胆しないように、彼が奪ったことにしようとしていると考えたから。

④ ガイモンは、ルフィが自分のために宝箱の中身がないという事実が判明するのを遅らせようと、わがままを言ってくれていると考えたから。

問七 傍線部Dに「芝居を打った」とあるが、これと同じ意味で「打つ」という語を用いている例文として最も適切なもの

を次の選択肢の中から一つ選び、その記号を解答欄 11 にマークせよ。

11

① 美食に舌鼓を打つ。

② 箴言しんげんが心を打つ。

③ 前庭に水を打つ。

④ 労組がストを打つ。

問八 傍線部Eに「その夢は、何も間違っていない」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適切なものを

次の選択肢の中から一つ選び、その記号を解答欄 12 にマークせよ。

12

- ① ガイモンは財宝を手に入れる目前で別の海賊に奪われることになったが、その財宝は確かにあったのだから、彼が見てきた夢は真実だったのだということ
- ② ガイモンは財宝を手に入れることを夢見ていたからこそ、今日まで前向きに生きてこられたのだから、夢を見つけたことは正しかったのだということ
- ③ ガイモンが宝箱を開ける日を夢見ていたからこそ、たとえ空であったとしてもその中身を知ることができたのだから、夢見たことの結着はつけられたのだということ
- ④ ガイモンが夢見た財宝はそもそも存在しなかったが、彼はまだそれを完全に受け容れたわけではないのだから、夢見ることの意義はいまもあるのだということ

問九 筆者の主張について説明した次の文章を完成させるよう、各欄に入る最も適切な選択肢を一つずつ選び、その記号を

解答欄

13

から

16

にマークせよ。

現代は全ての人間に 13 を見いだしづらく、一人ひとりがそれぞれの物語を生きる 14 であるため、自分の役回りを勘違いしセリフを誤り、 15 に失敗しやすい。しかし同時に劇のプロットを書き換え演じ直すこともできる。 15 とは、他者が大切にしているものを把握し、その 16 である。

16 15 14 13

- ① ものを手渡すこと
- ② 貧しい時代
- ③ 共通の基盤
- ④ 気持ちを共有すること
- ⑤ やさしさ
- ⑥ ケア
- ⑦ 恋愛
- ⑧ 多様性の時代

II

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。解答は、解答用紙の

17

から

25

までにマークせよ。

〈かたり〉という言葉行為は、独特のかたちで、時間にかかわる。(〈はなし〉とちがって)、〈かたり〉の行為においてかたられ、対象となるのは、主として過去のできごとである。平家の滅亡についてあるまとまった物語をかたり、あるいは、幼年時代や学生時代の思い出についてかたり合ったりするのは、あらためて説くまでもなく、〈かたり〉という行為のもっとも普通のありかたであるといっただろう。

〈むかしがたり〉という古いことばがあるが、右に述べたような次第で、近い〈むかし〉も遠い〈むかし〉も含めて考えれば、およそ、〈かたり〉は、一般に〈むかし〉にかかわるということができるかもしれない。そして、〈かたり〉がかかわる過去は、たんなる過去一般ではなくて、とりわけて、ある独特の様相を帯びた過去である。

このことは、^A〈かたり〉は〈むかし〉という独特の位相の過去にかかわる、あるいは、逆に、より立ち入っていえば、〈むかし〉という独特の位相の過去にかかわることが、〈かたり〉という言語行為をそれとして特徴づけあるいは特殊化する、ということができらるだろう。

それは、どういふことだろうか。

ひと口におなじく過去といっても、すこしあらためて考えてみればすぐにわかるように、^B〈むかし〉は、たんなる〈いにしへ〉や〈来し方〉とはちがう。早い話、〈いにしへ〉(往にし方)―〈行く先〉(先行き)―〈来し方〉―〈行く末〉、という、過去―未来のシンメトリーをなす表現を、われわれはただちに思い浮かべることができが、〈むかし〉にたいして同様のシンメトリーをなすべき未来に関する表現を仮に思い浮かべようとつとめてみると、一見容易なように見えて、手持ちのヴォキャブラリーのあるこれを探るところのうちに探ってみても、いわば〈むかし〉という語のもつ意味論的能力とでもいったもののおのずからなる厚い壁に繰り返しはねつけられるおもいを空しく味わうのがおちだろう。

〈むかし〉には、〈いにしへ（往にし方）〉―〈行く先〉（先行き）―〈来し方〉―〈行く末〉というペアに対応してそれと対をなすような未来に関する表現ないし語は存在しない。そうではなくて、これもすこし考えてみればあまりにもあきらかなように、〈むかし〉に対立すべき、また現にしばしば対立して使われもする表現は、たとえば〈むかしといま〉という言い方からもあきらかなように、むしろ、〈いま〉である。

〈むかしばなし〉と聞けば、（ちなみに、わが国の〈むかしばなし〉の口頭伝承の世界では、単に〈むかし〉といって〈むかしばなし〉を意味する場合はしばしばあることは、周知のごとくである。〈むかし〉^Cは、はなされ、かたられることによつて、はじめて〈むかし〉となり、〈むかし〉であることの暗黙の了解が、こうした表現の背後にあるといつてもよいかもしれない）、多少とも日本語の語感に親しみのあるほどのひとならば、それが、単なる一般の〈はなし〉でも、また単なる〈いにしへ〉や〈こしかた〉についてはなしでもなくて、ある独特のジャンルの〈はなし〉にほかならぬこと、すなわち、ア といえば、それが、（むしろ、〈身の上ばなし〉の類とも似て）、たとえそれが現実の過去のできごとに関するはなしであったとしても、そこに何らかの潤色が介入し、いわばある独特の時間と存在の次元をその対象ないし志向的相関者としてもつものであることを、ただちに了解するだろう。

「いまはむかし」という、古く〈むかしばなし〉あるいは〈むかしがたり〉の導入のひとつの定形として使われたお馴染みの表現がある。この表現もまた、期せずして、〈いま〉と〈むかし〉が、（すこし先を越していえば、時間の絶対的な不可逆性、あるいは、絶対的な不可逆性を帯びた時間、にかかわる）、いわば質的にへだてられた不連続な時間の秩序に属するという暗黙の了解が、その背後にあることを示しているだろう。「むかしをいまにかへさばや」という、〈むかし〉という次元に属する時間の絶対的な不可逆性にあえてさからわんとする願望ないし祈願は、^{注一}「むかしをいまにかへす」〈かたり〉のこ
とばや、また〈ふり〉しぐさのあれこれに、^D一種独特のあえていえば神話的なアウラを帯びせしめることになる。こうした
〈むかしがたり〉の境域においては、たとえそれが比較的近い〈むかし〉にかかわるものであろうとも、すべての形象は、

それがいわば〈むかし〉のうちに繰り込まれるに依じて、^{注一}プルーストの回想の世界におけるがごとくに、すでになにほどこかの神話的色彩を帯びる。

イ いえば、〈むかし〉に對立し、對比される〈いま〉は、単に、過去—現在—未来というときの、通常の常識的とされる時間理解において、過去と未来の持続に對比されるいわば点的な現在ないし現在時点ではない。何よりの証拠に、これもすこし考えてみればあまりにもあきらかな事実として、われわれは、普通、〈いにしへ〉—〈往にし方〉—〈行く先〉—〈先行き〉、〈来し方〉—〈行く末〉というようにはいうが、たとえば、〈いにしへ〉—〈いま〉、〈いま〉—〈行く末〉というように対応してことばを使ったり、まして、「来し方、行く末」という場合のように、それらを熟して使ったりということとは絶えてすることがない。

ウ いえば、〈いま〉は、あくまで、〈むかし〉と對立・對比して使われるのが常道である。

ということは、〈むかし〉と對立する〈いま〉は、いま近代物理学の時間についての教養をしばらく脇におき、括弧に入れている、けっして、過去—現在—未来にいう持続の幅をもたない点的な現在や現在時点ではなく、むしろ、〈いにしへ〉から〈行く先〉、あるいは、〈来し方〉から〈行く末〉までをもはるかに含めた幅をもった一種の体験流として理解されているということを意味すると解することができる。日本語にいう〈いま〉は、したがって、単なる、過去、未来と對立し持続の幅をもたぬ点的な現在ないし現在時点を意味するのではなく、むしろ、有名な『告白』^{注三}十一章におけるアウグスティヌスの時間分析にいうような^E〈過去の現在（現前）〉、〈現在の現在〉、〈未来の現在〉の三つの相ないし次元をとまにあわせて含みこんだひとつの総合的な時間理解ないし体験流のありかたを元來指示していると解するべきだろう。

（坂部 恵 『かたり』一部変更）

注一 アウラ・・・ある人や物から発せられる靈氣、独特の雰囲気。オーラ。

注二 マルセル・プルースト……(一八七一～一九二三) フランスの小説家。主著として『失われた時を求めて』がある。

注三 アウグステイヌス……(三五四～四三〇) 初期キリスト教会のラテン教父。主著として『告白』、『神の国』がある。

問一 空欄 に入る語句の組み合わせとして最も適切なものを次の選択肢の中から一つ選

び、その記号を解答欄 にマークせよ。

17 ① ア 逆に イ さらに ウ ちなみに

② ア 繰り返し イ 逆に ウ さらに

③ ア ちなみに イ 繰り返し ウ 逆に

④ ア さらに イ ちなみに ウ 繰り返し

問二 傍線部 A に「〈かたり〉は〈むかし〉という独特の位相の過去にかかわる」とあるが、それはどういうことか。その

説明として最も適切なものを次の選択肢の中から一つ選び、その記号を解答欄 にマークせよ。

18 ① 〈かたり〉は、客観的な事実としての過去を再現し、〈むかし〉を歴史的時間上で確定させることである。

② 〈かたり〉は、いま語る行為により、過去を〈むかし〉という異なる時間へと立ち上がらせることである。

③ 〈かたり〉は、過去を現在の視点から評価しなおし、〈むかし〉から未来への教訓を引き出すことである。

④ 〈かたり〉は、過去を共有する行為により、〈むかし〉という場で時を超えた共感を形成することである。

問三 傍線部Bに「〈むかし〉」は、たんなる「いにしへ」や「来し方」とはちがう」とあるが、それはどういうことか。そ

の説明として最も適切なものを次の選択肢の中から一つ選び、その記号を解答欄 19 にマークせよ。

19

① 〈むかし〉は、〈いにしへ〉や〈来し方〉と比べて、それが持つ辞書的な意味を正確に捉えることが容易な用語ではないということ

② 〈むかし〉は、〈いま〉と対になるが、〈いにしへ〉―〈来し方〉のように過去―未来ではなく、過去―現在の関係であるということ

③ 〈むかし〉は、〈いにしへ〉や〈来し方〉の持つ対称表現がないが、人それぞれが想像する言葉でそれは代用可能であるということ

④ 〈むかし〉は、〈いにしへ〉や〈来し方〉のように、過去―現在―未来という垂直的な時間の流れの中での一地点でないということ

問四 傍線部Cに「〈むかし〉は、はなされ、かたられることによって、はじめて〈むかし〉となり、〈むかし〉であること

の暗黙の了解が、こうした表現の背後にあるといってもよいかもしれない」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適切なものを次の選択肢の中から一つ選び、その記号を解答欄 20 にマークせよ。

20

① 〈むかし〉は、〈かたり〉という行為を通してその存在意義や特性を得るものであり、物理的時間軸に位置する時間概念ではない。

② 〈むかし〉は、〈かたり〉において、〈いにしへ〉や〈来し方〉とは違ったしかたで現在・未来とつながっている時間概念である。

③ 〈むかし〉は、歴史的な記録や文献に基づき定義づけられるもので、〈かたり〉の中でその意味が変化していく時間概念ではない。

④ 〈むかし〉は、〈かたり〉により伝承されることで本来の意味を失っていくもので、個人の記憶のみ存在する時間概念である。

問五 傍線部Dに「一種独特のあえていえば神話的なアウラを帯びせしめる」とあるが、それはどういうことか。その説明

として最も適切なものを次の選択肢の中から一つ選び、その記号を解答欄 21 にマークせよ。

21

① 〈むかし〉が〈かたり〉を通して伝えられていくうちに、次第に事実とは異なる誇張や脚色加わり、〈いま〉現在とは別世界の物語へと変化するということ

② 〈むかし〉の出来事が〈かたり〉を通して口承されると記憶が徐々に薄れていき、〈いま〉改めて語られることでそこに幻想的な雰囲気加わるということ

③ 〈むかし〉が〈かたり〉によって〈いま〉として呼び起こされることで、単なる事実を超えた象徴的な意味や普遍的な価値を備えるようになるということ

④ 個人の〈むかし〉の記憶が〈かたり〉によって文学的な作品となれば、時間的な制約を超えて、〈いま〉において普遍的な共感を呼ぶようになるということ

問六 傍線部Eに〈いま〉は「〈過去の現在（現前）〉、〈現在の現在〉、〈未来の現在〉」の三つの相ないし次元をともにあわせて含みこんだひとつの総合的な時間理解ないし体験流のありかた」であるとあるが、それはどういうことか。その説明として最も適切なものを次の選択肢の中から一つ選び、その記号を解答欄 22 にマークせよ。

22

① 〈いま〉とは、時間の絶対的な不可逆性を受け入れ、もはや過去をかえりみず未来へと向かう「先」を見据えた時間概念である。

② 〈いま〉とは、科学的測定にもとづき、過去と未来を明確に区別する客観的な時点を指し示すものとして機能する時間概念である。

③ 〈いま〉とは、時間軸上の一地点でなく、過去から未来への流れを支える、幅を持つ「場」のようなものとして働く時間概念である。

④ 〈いま〉とは、過去の出来事が未来に向けて絶えず変化し、その意味が更新される、一つの流動的な過程を指し示す時間概念である。

問七 筆者の主張について説明した次の文章を完成させるよう、各欄に入る最も適切な選択肢を一つずつ選び、その記号を

解答欄

23

から

25

にマークせよ。

〈いま〉と〈むかし〉は、三部構成の過去・現在・未来のような直線上の 23 時間概念とは違うものである。
 〈むかし〉は、単なる過去ではなく、〈かたり〉のなかで 〈いま〉かたられるたびに 24 され、過去の事実以上の
 特別な意味を付与される。これが 25 である。

25 24 23

- ① 記憶
- ② 神話
- ③ 修正
- ④ 伝承
- ⑤ 再生
- ⑥ 体験流
- ⑦ 連続的な
- ⑧ 非連続的な
- ⑨ 不可逆的な

MEMO
